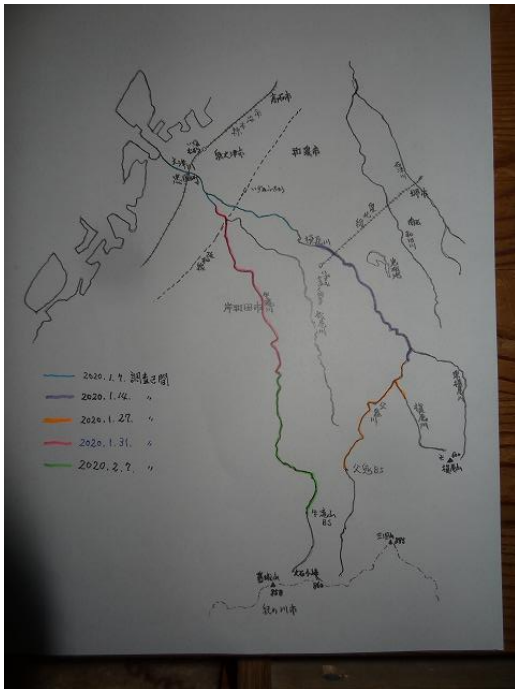


日本あちこち河川遡行記（第312回）

大阪4-2. 牛滝川（その2） 令和2年2月7日（金）曇り一時晴れ

牛滝川後半の遡行に出かける。

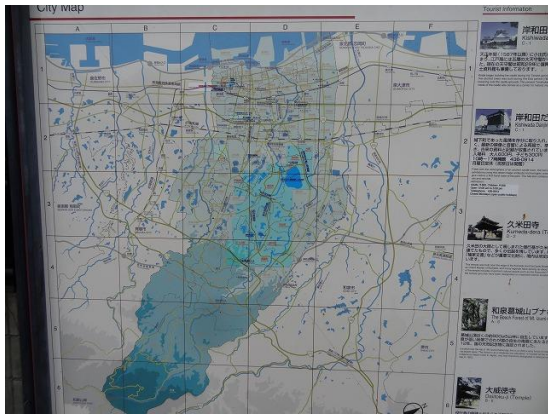


01.今回調査区間位置図（黄緑色部）

今朝は阪和線と泉砂川での架線トラブル、大阪環状線の線路への人の立ち入りでダイヤが大幅に乱れている。新大阪から1時間半もかかってようやく「久米田駅」に到着。予定していたより30分の遅れの到着である。阪和線の各停は多くの特急、快速の通過待ちがあり新幹線の「こだま」のように虐待されており、トラブル時には特に虐待が際立つ。

初めて降り立つ久米田駅の駅前には狭くバスが入って来られる状況でなく、同名のバス停は南東に800mほど歩いた府道に有る。たまたまバスの時刻まで1時間以上あったので30分の遅れの影響は無く済んだ。

駅前に数枚の縮尺の異なる絵地図が並んで立っている。これから向かう牛滝川全体の流域を着色した地図も有るではないか。大阪府最大の溜池の「久米田池」への道の案内図も有る。牛滝川の水の一部が池の東に導かれている。



02.久米田駅前に有った牛滝川流域図



03.デカイ久米田池が際立つ地図



04.駅から 800m 先のバス停に向かう

バス停までの途中の商店街で昼をと思って歩くがそれらしき店が無く、バス
 停手前のサンドイッチ専門店でサンドを買いバス停のベンチで食べることにす
 る。店のご主人に「商店街なのに食べ物屋が無いですね」と言うと、「前は有っ
 たのだが皆店を閉めてしまったんだ」。道は一方通行でこれならバスの乗り入れ
 は出来ないナ。

11時40分発の牛滝山行き「南海ウイングバス」が来るまでバス停のガタのき
 ている古いベンチで昼を摂る。今冬一番の寒さのなか道路を通る車を見ながら
 の昼飯である。



05.11 時 40 分発牛滝山行きを待つ

やがて岸和田駅前からバスがやって来る。南海バスと何ら変わらない姿である。泉南は泉北の堺、和泉市などと較べると人口密度が低く、ニュータウンなども少ないこともあり、バス会社を分社化している。岡山県でも県北部を受け持つ「中鉄バス」は分社化を進めている。

30 分ほどの乗車で標高 280m の終点の「牛滝山」に到着する。ここは和泉山脈の主峰「葛城山 (H=858m)」へのハイキングのベース基地である。今は無理だが登ってみたい山である。東京単身赴任時に週末に周辺各地の山歩きをしたのが懐かしい。



06. 終点の牛滝山の南の山は紀泉境だ

逆逆行を開始すると直ぐに牛滝温泉の大きな建物が際立つ。和泉山脈の北側には幾つかの温泉（牛滝、奥水間、犬鳴山）が有るようで中央構造線造成時のお土産かも知れない。

坂道をどんどん下ると葛城山に向かう林道が府道から分かれている。通行止めの看板が立っているが門扉は空いている。どっちがホンマなんや。



07.谷間に巨大な温泉施設が



08.ここから和泉葛城山への登山自動車道が

北に向かっていた川と府道が西に方向を変えると「上大沢」地区に入る。北側の山の頂上部はゴルフ場にされ、頭の禿げた状態で醜い。地形改変を大きくするゴルフ場は今の世の中には受け入れられないぞ！



09.山頂部を削ったゴルフ場は醜い姿だ

府道沿いには時々立派なお屋敷が現れる。田畑の少ない山間部にしては立派な家々で、かつては何か特別な産品が有ったのだろうか？門扉に家紋を付けた家は初めて見る姿である。道路沿いの壁の屋根瓦の角に宝船を載せた家も有る。



10.家紋付きの民家の門扉



11.民家の壁の上には宝船

「中大沢」地区に来るとこれぞお寺と言いたくなるような浄土寺のお寺が建っている。電線と大きな寺名の看板が目ざわりだなー。



12.味わいのあるお寺の姿

「中大沢」地区を歩いていると左側の府道沿いに綺麗に整備された竹林が続く。竹の下の空間が広がり、余計な竹も間引きされている。たぶん筍を採るための竹林なのだろう。

続いて道路の右側に駐在所には見えない瀟洒な建物が建っている。「大沢駐在所」で真新しい。綺麗な家に住みたい人は大阪府警の警察官になり岸和田署の駐在所勤務を希望しなはれや！



13.よく整備された竹林は良い筍が出来るだろう



14.真新しい駐在所はイイね！

道は西から北西に変わり「下大沢地区」に来ると、またまた立派なお屋敷に出会う。石段付きの門の奥には大きな母屋が見える。綺麗に整えられた素敵なお屋敷である。これだけの家と庭を維持していくのは相当な費用がいるだろうな。



15.大きく立派なお屋敷が際立つ

ここまで府道の橋だけであつたが下大沢まで来ると対岸に向かう市道と私道の橋が続き、下大沢が最大の集落であることが分かる。川沿いの民家の庭には紅梅が咲き出し晩冬の景色が現れる。



16.梅が咲いたぞ

集落を過ぎると西から東に向かう山並みを横断する山峡部に入る。狭くなった谷間を進むと大阪のイメージに似合わない溪谷が現れる。土佐や伊予、阿波には負けるがまあまあ一の溪谷でんな。

薄暗い溪谷の最後に阪和道の PC ラーメン橋が頭上高く谷間を越えている。橋の位置と橋種を見ただけで高速道路だと分かる。道路公団、首都高速、阪神高速それぞれが独自の橋種を持っている。山から里に下りて来た。



17.大阪にもこういう所が有るんだ



18.溪谷の終わりに阪和道が上空を通過

山峡部から平坦な台地部を府道は北に向かう。川は台地を深く削り見えなくなる。府道と川との間にとつともなく大きなお屋敷が彼方に見える。お寺のような大きな屋根が際立つ。母屋以外にも二つの蔵や付属の建物が塀の中に固まっている。きっと大庄屋だったのだろう。

府道沿いに柑橘園が現れ近づいて見るとデコポンが鈴なりに生っている。蜜柑の旬が過ぎこれからは伊予柑やデコポンが旬である。だんじりデコポンと言

っておこう。

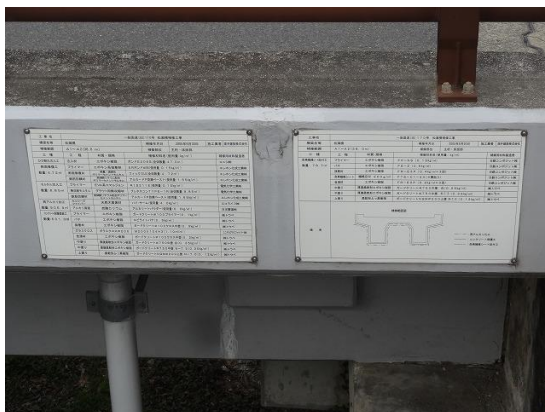


19.巨大な屋敷が川側に建っている



20.デコポンが鈴なりに

駐在所が再び現れる。「内畑駐在所」である。同じ道路で二つの駐在所に出会うのは珍しい。次の国道 170 号（旧道）の「松瀬橋」を見るため府道を離れ川に向かって下って行く。橋は昭和 8 年完成の 3 径間コンクリートラーメン桁橋、当年で 86 歳の超ベテランである。その橋を 2005 年に大規模な延命工事を実施したようで、その工事仕様が橋の地覆の外側に掲げられている。上流側に後から追加された歩道橋の上からカシャ。人家連担地区で新橋に架け替えられない橋で長期の通行止めが出来ない橋では今後はこの手のリニューアル工事が増加していくだろう。



21.昭和 8 年完成の「松瀬橋」はこの仕様で延命されている

府道に向かう坂道を登り次の橋に向かう。再度坂を下り川沿いの道を進み最後の橋に着く。橋の近くに河口から続いて来た距離標が立ち、10 キロを示している。昭和 42 年完成の市道橋「下出橋」も低い高欄を嵩上げと隙間を埋める工事が終わって見た目にも安心感が漂う。テレビに出て来る高所恐怖症（中所恐怖症でもあるが）の芸人もそんなに怖さを感じないだろう、この橋なら。



22.河口から 10 キロ地点のこの橋で
調査完了



23.昭和 42 年完成の「下出橋」もこの
通りリニューアル

橋から帰りのバスの「沢峯」バス停まで再び坂道を東に向かう。「山滝中学校」の体育館の横にバス停が有る。14 時 35 分に着き手元の地形図に歩いて来た道路に線を記入してバスを待つ。体育館からは子供たちの掛け声が聞こえてくる。やがて 14 時 43 分発の岸和田駅行きバスがやって来て帰路につく。今日もドンピシャの歩きだった。

次は大津川流域最後の川「松尾川」である。「久米田」駅からの天王寺行き区間快速はダイヤ通りにやって来た。

本日の歩行距離：8.6km。調査した橋の数：14。

総歩行距離：10,794.8km。総調査橋数：14,107。

使用した 1/25,000 地形図：「内畑」（和歌山 10 号-2）